脳卒中診療部（SCU）
Stroke Care Unit

脳卒中診療部長
宮本　享

身近な救急疾患も、チームの力で ベストの医療をより速く

Stroke Care Unit（SCU）とは、脳卒中の専門知識を持つ医師、看護師、理学療法士、ケースワーカーなどで構成されるチームにより、急性期治療から退院後の支援までを包括的に行う医療体制である。SCUにおいて急性期脳卒中患者を治療管理することで、長期予後が有意に改善することが判明しており、現代の脳卒中医療にとって、多診療科・多職種によるチーム医療は必須となっている。大学病院のSCUとして、次の目標達成をめざしている。

①24時間体制の急性期脳卒中治療　②多診療科・多職種によるチーム医療
③Seamless Careをめざした医療連携　④脳卒中専門医・認定看護師の育成
⑤脳血管障害に対する高度先進医療への挑戦

代表的診療対象疾患

Ⅰ. 出血性脳血管障害
①くも膜下出血：脳動脈瘤
②脳内出血：高血圧性脳内出血、脳動静脈奇形、もやもや病、硬膜動静脈瘻、静脈洞血栓症、アミロイドアンギオパチーなど

Ⅱ.虚血性脳血管障害
脳梗塞：心原性塞栓症（心房細動、感染性心内膜炎、卵円孔開存、肺動静脈瘻など）、アテローム血栓症（脳血管狭窄症・閉塞症、頸動脈狭窄症・閉塞症など）、ラクナ梗塞、もやもや病など

業務内容の特徴と実績

Seamless Careを実践

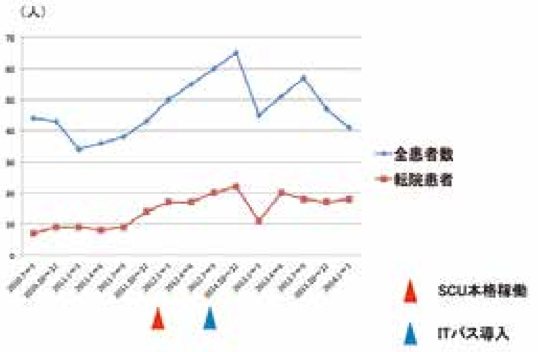
京大病院では、救急部、神経内科、脳神経外科の密な協力により、2011年9月に正式な組織として脳卒中診療部が発足した。同年12月からは実質的なSCUの運用開始、翌2012年2月からはSCU加算の開始、そして3月からは京都府の脳卒中急性期診療を担う医療機関として認定された。2012年7月には、京都府の地域リハビリテーション連携推進策の一環として、インターネットを利用した脳卒中地域連携パスの運用を開始し、Seamless Careの実践に役立てている。

ベテラン医師、看護師が従事

南病棟3階にSCU6床が開設され、宮本享部長（脳神経外科）の指揮のもと、副部長である吉田和道（脳神経外科）、武信洋平（救急部）、北村彰浩（神経内科）の3名を含め、3科より5年以上の診療経験を有する計12名の脳卒中診療医が通常診療および当直業務に当たっている。看護に関しては、斎田総一郎師長の指導のもとで20名の看護師が3交代制で勤務することにより3対1看護体制を維持している。リハビリテーションについては、専属の理学療法士が1名配属され、ベッドサイドにおける早期訓練開始に積極的に取り組んでいる。

入院数増加や在院日数短縮に成果

2013年度のSCU実人数は199人（男性：101人、女性：98人）で、平均入室日数は7.7日であった。前述の5大目標達成にはさらなる継続的な努力が必要となるが、SCUの立ち上げから始まった脳卒中診療部のこれまでの取り組みが、脳卒中患者入院数増加や在院日数短縮などの成果に現れつつある（図）。



高度先進医療の取り組み

新たなコンセプトに基づく医療に挑戦

SCUが関与する高度先進医療としては、最新のデバイスを用いた虚血性疾患に対する急性期血行再建術やくも膜下出血に対する脳動脈瘤塞栓術の他、神経内視鏡を用いた脳内血腫除去術などを24時間体制で積極的に実施している。また、一般的な開頭クリッピングやコイル塞栓術では治療不可能で、有効な治療法が確立していない巨大脳動脈瘤や血栓化動脈瘤に対し、直達術・血管内治療等を組み合わせて血行動態を改変し、瘤内への血流ストレスを減じることで動脈瘤自体を縮小あるいは血管内腔以外を血栓化に持ち込む複合治療や、動脈瘤壁に対する定位放射線治療など、新たなコンセプトに基づく先進的医療にも取り組み、一定の成果を上げている。